

令和6年度学校評価（最終評価）

本年度の重点目標		一人一人を尊重し、その育ちと学びを大切にする教育の充実 ①安心して学べる教育環境の整備 ②教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 ③地域とつながる学校づくりの推進 ④働きがいのある魅力的な教育環境づくりの推進		
項目（担当）		重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	① 安心して学べる教育環境の整備	一人一人の人権を尊重した適切な指導や支援を行い児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。	スタディ会等で児童の生活年齢に合わせた言葉掛けや適切な指導・支援ができています。適時、振り返る。	適切な指導・支援ができていたが各スタディで振り返ることにより、教職員の人権に対する意識を高めることができました。
	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	児童が主体的で深い学びができるよう、指導方法の充実を図る。	教職員がお互いに授業を参観し、各学習集団の授業計画や授業改善に生かすことができるようにする。	校内研究と関連させながら授業参観や授業改善に取り組むことができました。その成果をもとに、今後もより良い指導について検討していきたい。
中学部	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	生徒一人一人の将来の生活を見据え、中学部段階における指導方法の充実を図る。	現時点での進路希望を把握した上で個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、指導の充実を図る。	生徒の将来像について保護者、本人と話し合い、合意形成を図ることができた。指導計画は部の職員全員で共通理解し、指導に当たることができた。
	③ 地域とつながる学校づくりの推進	地域資源を生かし、教育活動の充実を図ると共に、本校の活動をピアールする。	校外での学習活動を進め、生徒の経験の幅を広げる。ホームページを活用し多様な情報を数多く発信する。	校外の資源を活用し、生徒の生活の幅を広げる学習を実施できた。全職員が情報発信の大切さを認識し、ホームページを頻繁に更新できた。
高等部	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	自分の考えや気持ちを伝える能力を高める。	さまざまな学習場面を通してICT機器を効果的に取り入れる。	さまざまな場面で、選択により意思を伝えたり、視線入力により表現力を高めたりすることができた。今後は、日常生活に生かすことが課題である。
	④ 働きがいのある魅力的な教育環境づくりの推進	行事等の業務を整理し、意欲的かつ円滑に遂行する。	行事等の目的や内容を見直し整理する。業務のマニュアル化を進め、部内で共有する。	各行事でファイルを整理し、目的や改善点を円滑に引き継げるようにした。今後は、効率的で効果的な行事のあり方について検討をしていく。
訪問教育	① 安心して学べる教育環境の整備	保護者、医療、福祉等と連携を図り、児童が安心・安全に学習活動に取り組めるようにする。	保護者や関係諸機関の担当者や情報を共有することで、児童の生活環境を含めた状況把握に努め、指導に生かす。	児童が利用している福祉サービス職員や訪問看護師とも情報を共有することで、児童が安心して安全に学習活動に取り組むことができた。
	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	児童同士や周囲の人と関わり合う活動や体験的な活動等を多く取り入れ、充実した学習活動ができるようにする。	教職員間の情報共有を密にし、タブレット端末等の効果的な活用や、教材教具の工夫をする。	家庭でのインターネット利用の環境を整えることで、通学生や訪問生同士で双方向通信による交流をすることができ、児童の関わりを広げることができた。
総務部	③ 地域とつながる学校づくりの推進	保護者や地域に向け、学校の取組や児童生徒の活動を魅力的に発信する。	他校の各たよりを参考に、学校だより、PTAだよりの内容やレイアウトを検討し、興味関心を深められるようにする。	PTAだよりでは、役員会で検討した内容について掲載することで、役員以外の保護者にPTA活動に対する理解を高めることができた。
	④ 働きがいのある魅力的な教育環境づくりの推進	業務内容の引継ぎをしっかりと行い、次年度の円滑な業務実施につなげる。	係分担を見直し、経験者が直接業務内容を伝えられるような体制を整える。	各係のマニュアルを再度見直し、より効率的にできる方法の検討を依頼することで、来年度に向けての改善を行うことができた。
教務部	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	PDCAサイクルをより意識し児童生徒の学習の成果を的確に捉え、評価や授業改善につなげることができる。	ケース会やスタディ会を効果的に行えるよう、教務主任を中心に各部の取組を把握し、課題を共有して改善を図る。	ケース会等の会議や個別の教育支援計画の作成、授業実践等をPDCAサイクルで整理し、年間計画を立てることができた。
	④ 働きがいのある魅力的な教育環境づくりの推進	教務部の業務についての引継ぎ資料やマニュアルの整理を進め、業務の効率化を図る。	教務部の業務の引継ぎ資料や年間予定についての資料を整え、担当者が代わっても、スムーズに業務が進められるようにする。	データの保管場所を統一し、マニュアルや引き継ぎ資料を、整理することができた。継続してマニュアルを更新し、効率的に業務を進められるようにする。
研修部	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	職員の研修や研究の充実を図る。	校内研修の日程調整や計画をする。校内研究では、各部代表やリーダーと連携を図り、円滑に進めていく。	校内研修は、計画どおりに実施できた。校内研究も各部の計画に沿って進め、研究内容を深めることができた。
	④ 働きがいのある魅力的な教育環境づくりの推進	特別支援教育の専門性や指導力の向上を図る。	外部機関主催のオンライン研修及び対面研修を周知する。アンケートを基にニーズに応じた夏季研修を計画する。	校内支援システムやポスター掲示で研修や書籍の情報を周知した。夏季研修は好評で、多くの職員が参加することができた。

項目（担当）		重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教育情報部	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	ICT機器を教育により生かすことができるように、教職員のスキルの向上を図る。	ICTに関する研修を行い、指導・支援に生かせる情報を共有し、児童生徒に還元できるようにする。	ICT支援員を活用し、充実した研修を実施し、職員のスキルの向上に努めることができた。教員用端末更新に伴い速やかな機器設定し、スムーズな運用ができた。
	③ 地域とつながる学校づくりの推進	ホームページとおして情報発信を進め、より多くの方に本校教育に対する理解を深めることができるようにする。	ホームページ作成手順の簡略化を進め、閲覧しやすいホームページを作成する。	個人情報等の使用一覧を作成し、HP掲載の手順の簡略化に努めることができた。また、学校生活の様子を掲載し、地域の方にも知っていただく機会を増やすことができた。
生活指導部	① 安心して学べる教育環境の整備	教室等の安全確保を行い、地震発生時における初期動作を身につける。	定期的に減災訓練や身を守る行動訓練を実施する。訓練結果を速やかに共有し、改善したことを次回の訓練に生かすようにする。	身を守る行動訓練と安全点検を定期的に実施した。教室内の安全確保が十分にできていない点もあるため、引き続き、安全確保に努めていく。
	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	児童、生徒の人権や障害特性に応じた生活指導の充実を図る。	ひいらぎ人権週間や児童生徒相談活動を通して、人権や自分の生活について考える機会を設定する。	ひいらぎ人権週間を実施した。思いやりの木は、児童生徒が人権について考える良い機会になった。今後も継続して取り組んでいく。
進路指導部	② 教育的ニーズに応じた支援・指導の充実	円滑な進路選択ができるよう、各家庭が希望する進路先について適切な情報を提供する。	進学や在宅就労など本校における実績の少ない進路選択について、各関係機関との連携を密に行い、必要な情報を収集し提供する。	各機関と連携を図り、在宅就労が可能であるなど、生徒の希望に沿った事業所の情報を提供し、見学や実習を行うことができた。
	③ 地域とつながる学校づくりの推進	各地域の企業や事業所、入所施設等との連携を深め、進路に関する情報提供を充実する。	入所施設等の事業所へ訪問し、情報収集をしたり、入所した卒業生の保護者を講師として招いた研修会を開催したりする。	グループホームの管理者から施設的环境や入所の条件を聞いたり、利用している卒業生の保護者から生活の様子について講演をお願いしたりするなど、入所に関する情報を収集・提供することができた。
保健部	① 安心して学べる教育環境の整備	医療的ケアや個に応じた保健管理の安全な実施体制を整備する。	保護者のニーズを理解し、安全に学校生活を送ることができるよう関係者と相談しながら進める。	アレルギー対応給食や看護師による医療的ケアの開始を早めることができた。医療的ケアの個別対応や災害時物品等について学校医等に相談しながら組織的に進めた。
	② 教育的ニーズに応じた支援・指導の充実	学校保健活動に取り組み、生活習慣や健康について支援の充実を図る。	各委員会活動や学活、HR等を通して、児童生徒自身が生活習慣について考える機会を作る。	期間を設け、児童生徒自身が生活習慣について考え、取り組む活動を実施した。委員会や児童会、各クラスでのHRなど、保健活動に生かすことができた。
自立活動部	① 安心して学べる教育環境の整備	安心、安全なプール指導の環境を整備する。	プールの水質管理及び職員の実技研修を計画的に実施する。教務部や保健部と連携し安全にプール指導ができる指導体制を組む。	大きな問題なく実施できた。今後は児童生徒数増加への対応や指導者数の確保、指導内容の充実などの課題解決に向けて検討していきたい。
	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	児童生徒の生活や学習面の教育的ニーズに気づき、適切な指導・支援ができるよう教員の専門性を高める。	自立活動の目標設定や支援方法についての研修を実施し学ぶ機会を増やす。外部専門家巡回相談を活用する。	職員の学ぶ意欲は実感できた。今後も研修の充実や相談内容の共有など日常的に学べる職場環境づくりをして専門性を高めていきたい。
教育支援部	② 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	相談活動を通して、児童生徒の障害特性に応じた指導方法の工夫や支援の充実を図る。	ひいらぎ校内相談やAT相談を実施する。校内にあるAT機器を指導に生かせるよう準備していく。	教育情報部と連携し、視線入力環境整備を進めている。活用方法について専門家に相談し、検討していきたい。
	③ 地域とつながる学校づくりの推進	地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を果たす。	支援指導検討会、巡回相談等の相談事例について事前に検討し、適切な助言ができるようにする。	相談事例について事前に検討し、適切な助言ができた。今後は、支援部だよりに事例を載せて職員に紹介していく。

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひいらぎ防災週間や人権週間が定着し、児童生徒職員の防災意識や人権意識の高まりを実感できた。 また、アレルギー対応や医療的ケアの早期開始、プール指導の安全な実施などに取り組むことができた。 ・ 研究や研修が充実し、授業改善が改善するなど教育活動に充実につながった。ICTに関して、専門家による研修を実施し、指導力の向上につながった。 ・ H P掲載手順を変更し、迅速かつ安全に掲載できるようにしたことで、頻繁に更新を行うなど、情報発信力が向上した。また、地域のニーズに応じた、見学会や相談件数を増やすことができた。 ・ ICTを活用した会議や連絡、研修が充実し、業務の効率化につながった。 ・ いじめ不登校対策委員会で取り上げる事案はなかった。今後も未然防止対応をすすめるとともに、職員間の情報共有に努め、児童生徒、保護者との信頼関係の維持・構築に取り組んでいく。
------	--

学校関係者評価等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<p>一人一人を尊重し、その育ちと学びを大切にする教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安心して学べる教育環境の整備 ○教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 ○地域とつながる学校づくりの推進 ○働きがいのある魅力的な教育環境づくりの推進 ○いじめ防止に向けた取組
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療的ケアやプール指導等の対応について保護者の協力のもと、安全に実施することができた。 ・ ICT 機器の活用や業務のアンニアル化など、学校全体として業務の効率化を進めることができた。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全を最優先した教育活動を推進する。 ・ 会議を精選するなど継続して業務の効率化を進め、授業準備や子どもに向き合う時間の確保に努める。
その他 (学校関係者評価委員会から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の効率化が進み、「児童生徒と向き合う時間が増えた」など教職員が実感できるとよい。 ・ 進路に関して社会資源の不足もあるが、学校、地域、保護者と協力して進めていけるとよい。 ・ 保護者アンケートで進路に関して評価が低いことが意外に感じる。 ・ 高等部の授業の様子を見学させていただき、将来に見通しがもてた。 ・ 分かりやすい授業の工夫や環境づくりがされている。 ・ 入学後に医療的ケアを早い段階で始めるために、どのような工夫がされているのか。 ・ 在宅就労に向けた取組について教えてほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<p>構 成：学校評議員 4 名、PTA 役員 3 名、校長、教頭、事務長、部主事</p> <p>評価時期：1 月下旬</p>